

世田谷村日記

石山修武

十月二日 日曜日

朝、原口家訪問。小猫のジローと初対面。原口さんのところの猫は拾い猫で、道端で弱り切って倒れているのをどこかの子供があれんで介ほうしているのを見かねて引き取った。引き取れば情が湧く。何となく風姿に独自の品格があると思いついた。引き取れば国種のロング何とやらの種の混血らしいと知った由。高貴なんだと言う。会ってみたら、成程可愛いものだ。他人を恐れずに慣れ親しむ。原口夫妻も満更ではない様子であった。我家の猫ニコライはもらい猫である。すぐにニコとジローを私は比較値踏みした。まことに品がよろしくない。マ、そんな程度の者だ、私は。当然、飼う猫はそれぞれのモノが一番に決まっている。

十八時半、宗柳で会食。NYのグローリアの父親。アメリカでは有名な投資会社の凄腕らしい。日本を買いに来ているのだろう。北京の事が頭をもたげたが話さなかった。家族を巻き込むわけにはいかない。二〇時半、世田谷村に戻る。夕方、アツという間に書き上げた室内連載2回目の原稿に手を入れ、編集部にFAXで送る。まさか、今日は誰も来ていないだろう。今日は何故だか、山本夏彦を何冊か読んだ。懐かしい。宗柳のおかあさんまで世田谷村日記読んでるのが判明。ウーム。

十月三日

室内の連載は少し頁数が足りない感もあるが、切り捨てて、切り捨てて何とか書き続ける。どこまで続くか、自分でも興味があ

る。このところ世田谷村にいる時間が多くなった。日曜の大半は静かにしている。前はほとんど居なくて、我ながら闇雲に動き廻っていた。無駄が多すぎた。マ、動くようになるのか、更に静かになるのか、今はわからぬ。

十月四日

十一時メディアデザイン研究所打合わせ。野村、渡辺同席。農村計画他。ANYのゲラ、まだ手許に出来ない。農村計画は早急の考えでない、複雑な細部。個々人のライフスタイルの集合としてのコミュニティが描けるかどうかのポイントだ。沖縄のスタディが役に立つのではないか。十三時過名古屋の左官事業所加村氏来室。野村同席、左官再生P十六時二〇分迄。加村氏三十八才前向きである。